

「書くこと」は「考えること」 ～神戸新聞「若者 BOX 席」投稿～

1月20日(土)神戸新聞投稿欄「若者 BOX 席」に、3年生の本庄直之君の意見が載りました。本庄君は、文化祭の意見発表で3年生の代表として自分の考えを全校生に向けて発表しました。その時に発表した意見を400字にまとめて神戸新聞に投稿したものがこの度採用されました。

自分で何か文章を「書く」というのは、やってみるとなかなか大変です。「書くこと」を面倒くさがったり、あまり好きではないという生徒が結構います。これは生徒に限ったことではありません。

「書くこと」がむずかしいのは、漢字や言葉の使い方、原稿用紙の使い方といった「書く」ための基礎的な知識がないということもあるかもしれませんが、それよりもむしろ「書くこと」が「考えること」に直結するかなり高度な学習活動だからだと思います。

たとえば何か意見を書くためには、自分の思ったこと、考えたことを整理して相手に伝えるようにまとめることが必要になります。これがなかなか大変です。しかし、「書くこと」によって今までぼんやりと思っていたことや考えていたことがより明確になり、形のあるものになっていきます。「書くこと」によって自分の考えがまとまり、自分の言いたいことがはっきりしてきます。「書くこと」それ自体が実は「考えること」なのです。

10代の青年期に「考える」機会をたくさん持つことが大切だと考えています。体験や経験といった具体的な行動の中で、何かを感じたり、気づいたりする機会をたくさん持ち、それを「書くこと」でしっかりと「考えること」ができます。

(校長 高橋信之)

2018年1月20日付 神戸新聞

若者 Box 席

よりよい人間関係のために

本庄 直之 18歳
(高校生 丹波市)

高校生になるまで、他人の気持ちを考えたことがあまりありませんでした。周りのことも考えず自慢話をしたり自由奔放に振るまったりして友達から非難されたことがありました。

しかし言われてすぐ自分の欠点に気付くことはできませんでした。気付けたのは高校生になって自分と似たような性格の人と出会ったことがきっかけでした。

高校生になってから二つのことに気がつけています。一つは決して自慢話をしないことです。自慢話は感心してもらえないこともあれば反感を買うこともあるからです。

もう一つは時には自分の意見を素直に話すことです。家族だろうと友達だろうと思っていることは言わなければ伝わりません。よりよい人間関係のためには自分から動き出すべきです。そうしなければ何も変わらないままです。

よい人間関係を築くことができれば多くの人と仲良くなれると信じています。